

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	厚木市児童発達支援センターひよこ園		
○保護者評価実施期間	2026年1月15日		～ 2026年2月8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	59	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	2026年1月15日		～ 2026年2月8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○訪問先施設評価実施期間	2026年1月15日		～ 2026年2月8日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 18
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月12日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・事業所として、児童発達支援事業、相談支援事業を実施しているため、連携をとって支援することができる。	・児童発達支援に通所している子は、クラスの様子を見学したり、訪問前に担任から様子を聞くようにしている。 ・各専門職（心理士、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士）の助言を受け、子どものアセスメントをしている。	・児童発達支援の個別支援計画書や、相談支援事業のサービス等利用計画や事業所のモニタリング記録を確認するようにして、それぞれの支援方針を知る。 ・お子さんの状況によって、専門職の同行ができるようになると良い。
2	・地域における認知度が少しずつではあるが高まっていること。	・訪問先の先生との信頼関係を丁寧に構築し、それぞれの機関における教育方針や考え方を尊重しながら取り組んでいる。 ・初めて行く訪問先では、電話を通して事業説明を行った後、必要に応じてリーフレットを持参しながら説明をして、事業内容についてご理解いただいている。	・関係構築が深まった訪問先がある一方で、事業の概要が未だ周知不足の訪問先もある。特に中学校への訪問回数が少ないため浸透していないように感じる。今後も継続して事業内容について周知を図っていく。小学校などは学年の変わり目で担任が変更するため、その都度信頼関係の構築に努める。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・契約や依頼から実際の訪問日までに期間が空いてしまうことがある。	・現在は必要性を感じたタイミングで電話で依頼をいただいているため、急な依頼が受けられないことがある。 ・依頼がある月にばらつきがある。長期休み明けや行事前の依頼が重なってしまう。	・契約時に年間の大まかな訪問計画を立てることで、計画的に訪問に伺えるようにする。また、訪問後に報告をする際に、計画通りの訪問で良いか、頻度を増やすかなど相談をする。
2	・ひよこ園通園児や、卒園児の利用が多く、外部の方の契約が少ない。	・保育所等訪問支援事業の概要が訪問先施設や相談支援事業所に伝わっていない。	・訪問時にひよこ園の保育所等訪問支援事業のリーフレットを配布して、訪問先施設に事業概要を周知し、必要性がある方に紹介をしていただく。訪問先施設だけでなく、相談支援事業所へもリーフレットを配布して周知を図っていく。
3			